

日本語教育人材の役割・段階・活動分野 に応じた養成・研修のイメージ

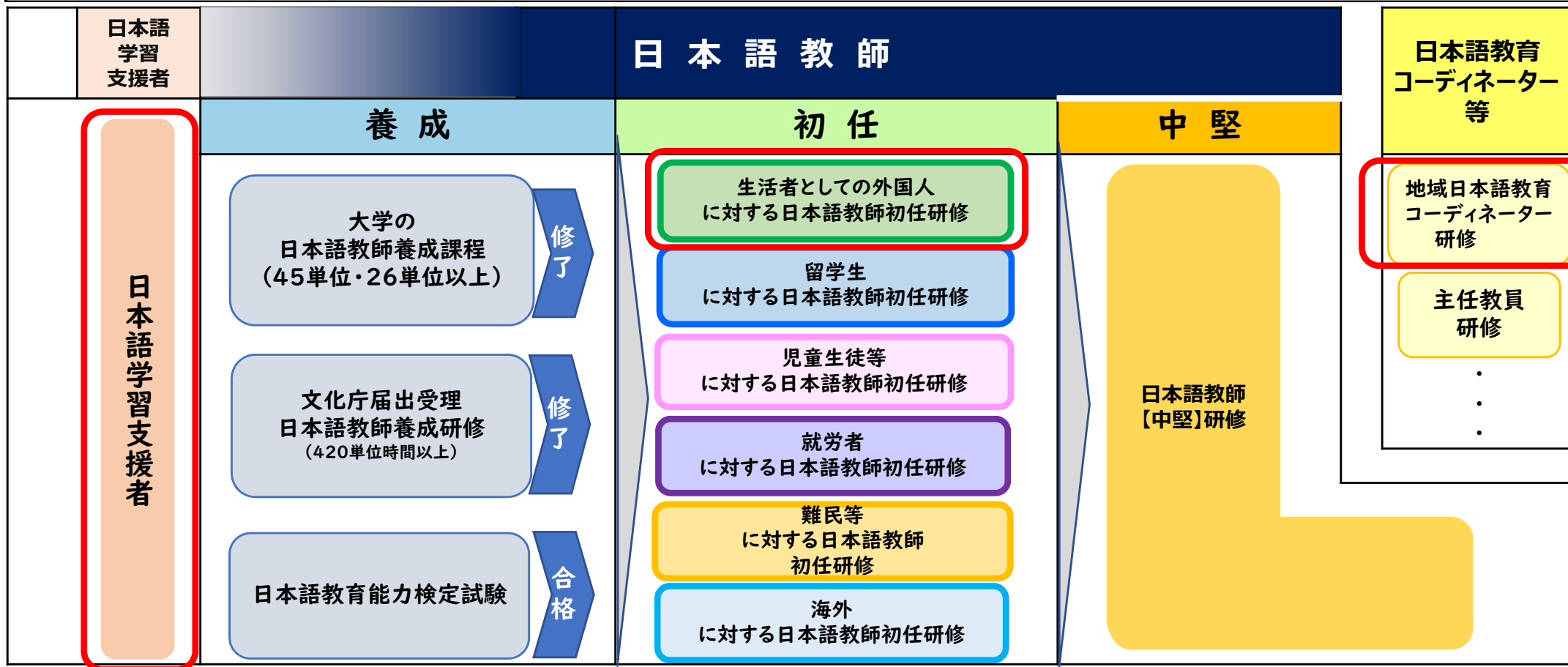
令和5年1月13日 総合的な支援をコーディネートする人材の役割等に関する検討会

文化庁国語課

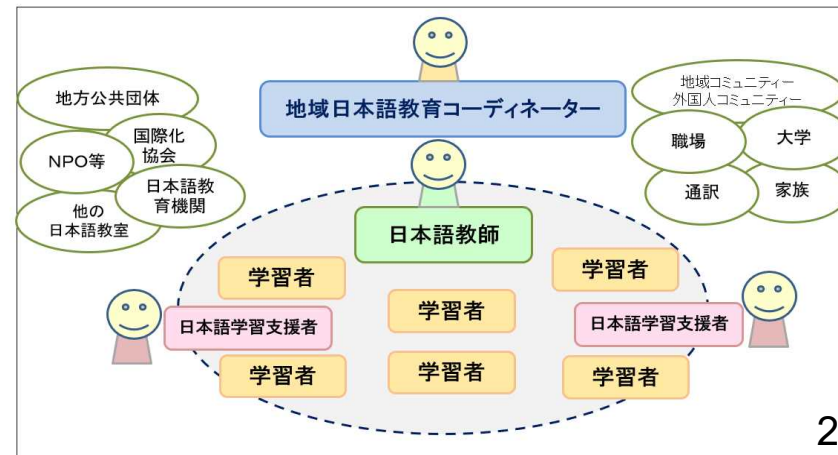
コーディネーター	施策種別	業務内容
地域日本語教育コーディネーター	日本語教育の支援	<ul style="list-style-type: none">・日本語教育に係る専門的な知見を以て、地域の日本語教育に関する下記の取組を行う。・日本語教育プログラムの策定・日本語教室の運営及び改善・日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言・大学、日本語教育機関等の多様な機関との連携・協力 <p>* プログラムの日本語レベルは、「日本語教育の参照枠」における基礎段階の言語使用者（A1）から自立した言語使用者（B1）を想定。</p> <p>* 令和3年11月1日現在、国内における日本語教育コーディネーター数は695人となっている（令和3年度日本語教育実態調査）。</p> <p>* 「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業」を通して、地域日本語教育コーディネーターが、当該地域や外国人の特性等に対応した教育プログラムを策定するなど、地域日本語教育を活発化するような総合的な体制づくりのための取組を支援。</p>

日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ

日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版
（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）より作成

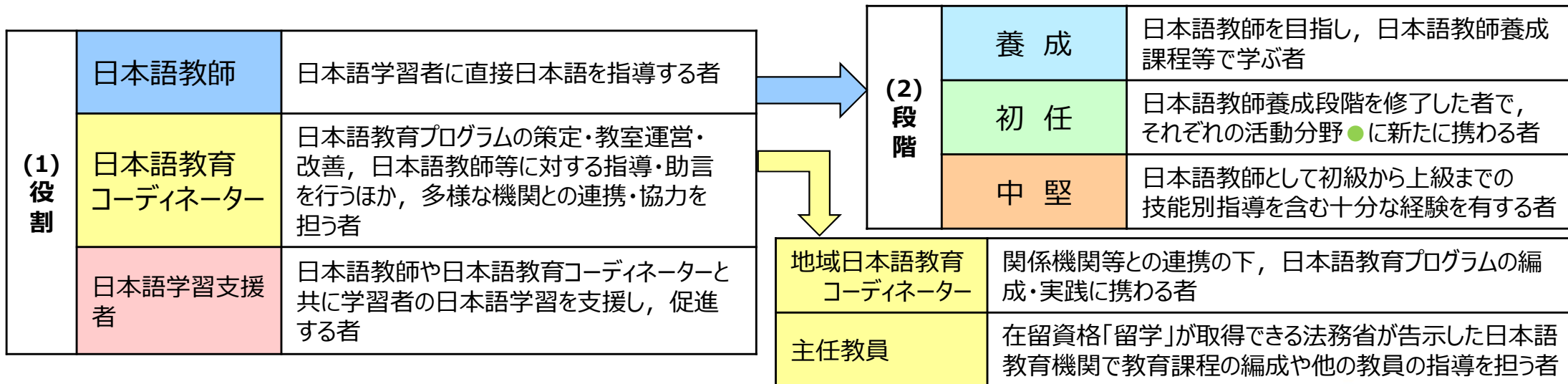


日本語教育人材		受講対象
日本語教師	養成	○日本語教師を目指す者
	初任	○日本語教師【養成】を修了した者 ○当該活動分野で新たに日本語教育に携わる者
	中堅	○各活動分野において初級から上級学習者の指導に十分な経験 (2400単位時間以上※)を有する者
日本語教育 コーディネーター	地域日本語教育 コーディネーター	○中堅を経て、地域日本語教育において3年以上の実務経験を有し、 地方公共団体等でコーディネート業務にあたる者
	主任教員	○日本語教育機関において常勤経験3年以上を有する者
日本語学習支援者		○多文化共生・日本語教育に興味関心を持つ者



日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ

- 日本語教育人材とは、日本語教師、日本語教育コーディネーター、日本語学習支援者といった、それぞれの役割により、外国人への日本語教育の円滑な普及を促す人材である。
- 日本語教師は、大学の日本語教師養成課程（45単位・26単位以上）又は文化庁届出受理日本語教師養成研修（420単位時間以上）等により養成され、初任研修を受講してから指導にあたる。その後、指導経験を積み、中堅研修の受講へ進む。
- 日本語教育コーディネーターは、日本語教育に関する一定以上の実務経験を経た後に、地域日本語教育コーディネーター研修、主任教員研修により養成される。
- 日本語教育人材の（1）役割，（2）段階，（3）活動分野別は以下のとおり。



(3) 活動分野

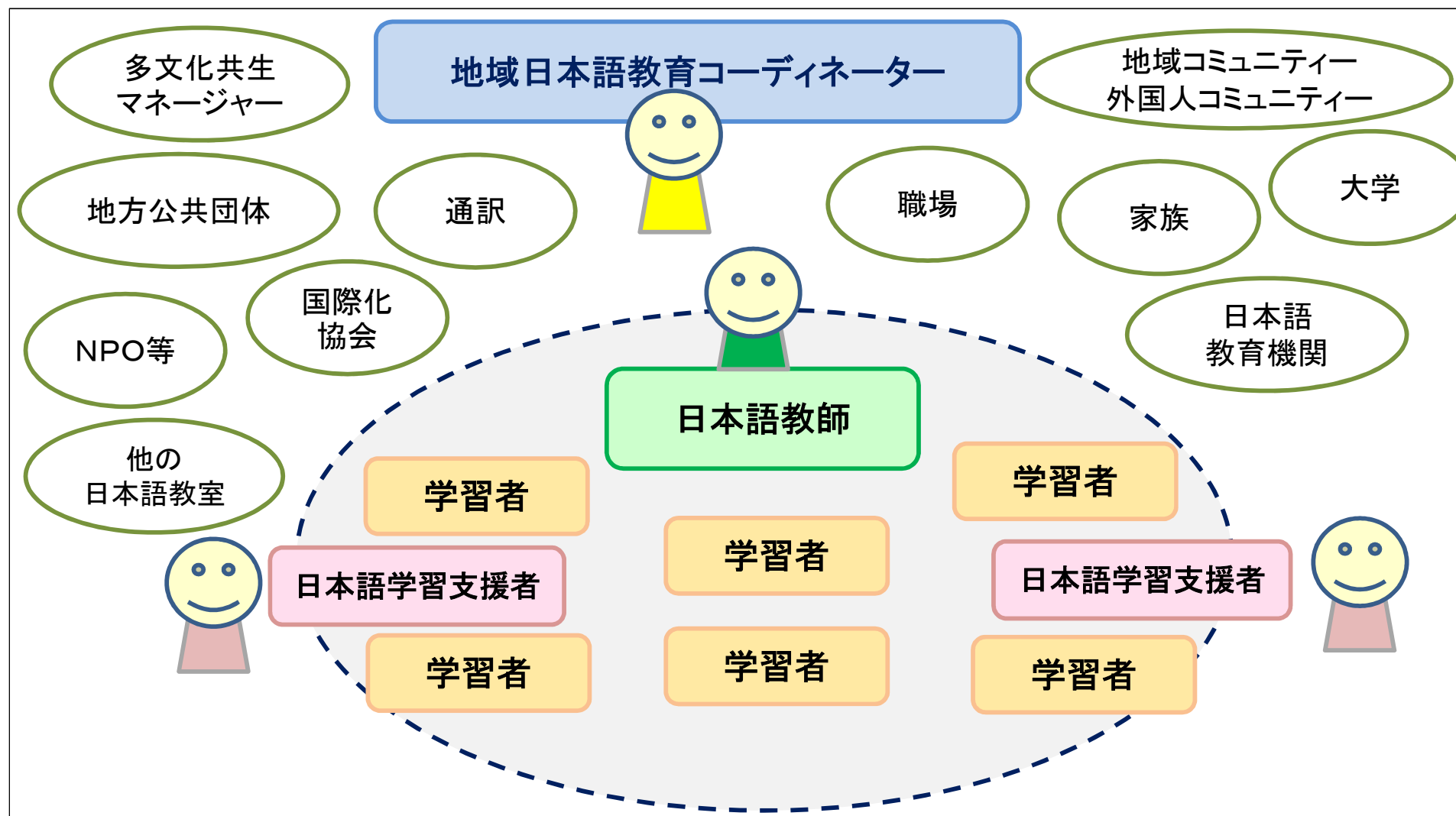
●の6つの活動分野を提示。

- <国内> ●「生活者としての外国人」 ●留学生 ●日本語指導が必要な児童生徒等
●就労者 ●難民等
- <海外> ●海外における日本語教育

※初任時の活動分野別に研修プログラムを提示



「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材の連携の一例



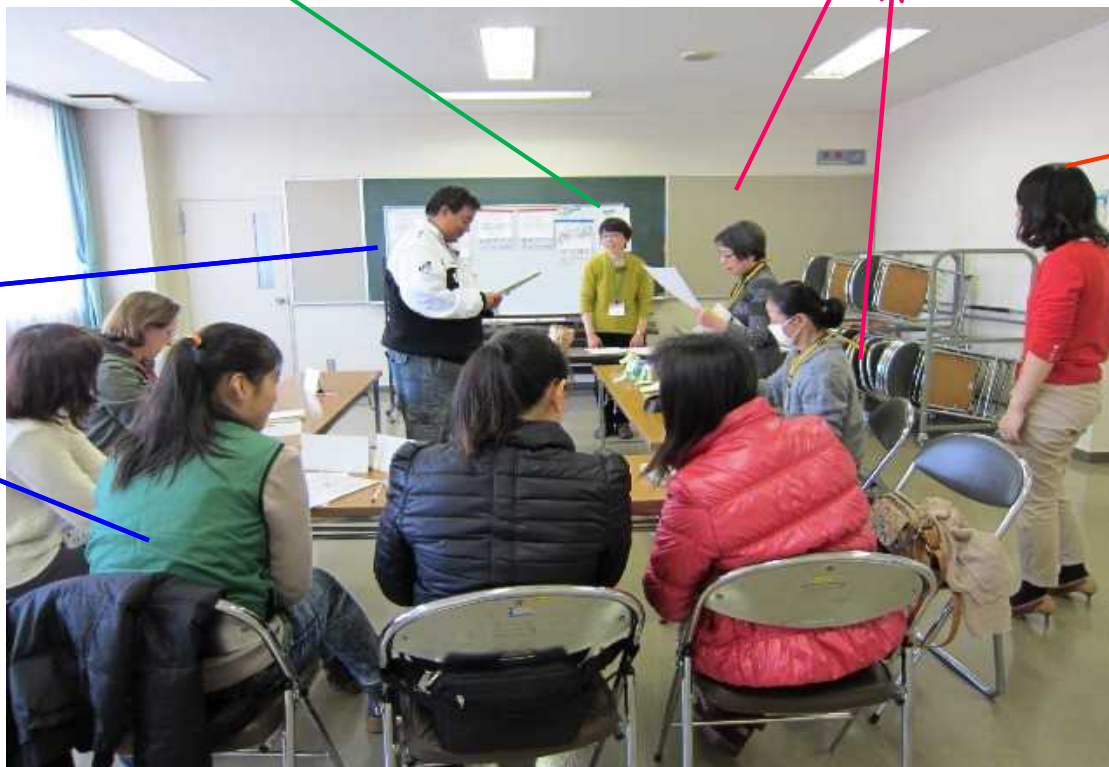
「生活者としての外国人」が日本語を使って相互理解を図り、社会の一員として地域で生活が送れるよう、地域日本語教室が運営されます。地域日本語教育コーディネーターは、地域の行政機関・NPO、コミュニティー等と連携して、各地域の特徴や学習者のニーズを把握して日本語教育プログラムを作ります。日本語教師は、日本語教育プログラムを踏まえ、学習者に応じて日本語教育を実践します。日本語学習支援者がいる場合は、学習者に寄り添いながら学習を支援します。

參考資料

●日本語教師
(5~7名:毎回2名)
有資格者, 教授経験豊富

●日本語学習サポーター(日本語学習支援者)
地域居住のボランティア日本人住民
「人材育成研修」の一環として教室に参加
日本語のモデル発話, ペア練習の相手,
ロールプレイの見本, レベル差の大きい学習者の補助等
を行う

●日本語学習者
地域に居住する
外国人住民(成人)
ゼロレベル
母語は限定しない



●総社市役所職員
総社市日本語教育事業
の事務局
(国際・交流推進係)

●地域日本語教育
コーディネーター
岡山大学教授
(文化庁地域日本語教育
アドバイザー)

有資格者の日本語教師が指導者となることで日本語教育の「質」を確保し、日本語学習サポーターを配置して、地域の生活情報の提供, 生きた日本語との接触, 地域住民同士の交流を促進することで、日本語教室を「地域住民同士がつながる場」として機能させている。これらの活動のデザインを専門性を有する地域日本語教育コーディネーターが担うことで、必要な連携先をつなぎ、持続可能な実施体制を構築している。

日本語教育人材の活動分野別の教育内容

「日本語教育人材の養成研修の在り方について（報告）」改定版

日本語教育人材は、役割・段階・活動分野別に求められる資質・能力を身に付けるために必要な教育内容が示されています。

役割	日本語教師（初任）	地域日本語教育 コーディネーター	日本語学習支援者
活動分野	生活者としての外国人		
教育内容（一部抜粋）	1) 国・地域の在留外国人施策 2) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育 3) 言語サービス（多言語化・やさしい日本語） 4) 「生活者としての外国人」の多様性 5) 外国人住民の社会参加 6) 「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習 6) 「生活者としての外国人」の異文化受容・適応 など	1) 日本語教育に関わる国及び地方公共団体の施策 2) 在留外国人に関する法制度、行政サービスの把握・整理 3) 地域日本語教育のプログラムデザイン 4) 日本語教育人材に対する研修の企画・立案 5) 活動と広報 6) 事例研究 7) 組織マネジメント（ネットワーキング、コミュニティデザイン、ファシリテーション等） など	1) 学習者の背景に対する理解 2) 多文化共生 3) コミュニケーションストラテジー（地域のことば、やさしい日本語） 4) 異文化理解 5) 地域日本語教育の多様性 6) 日本語学習支援 7) コミュニケーション教育 8) 日本語の構造 など

1. 地域日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力

	知識	技能	態度
日本語教育コーディネーター【地域日本語教育コーディネーター】	<p>(1) 国や地域内の外国人の状況や、外国人に係る日本の法制度や地域の行政サービスに関する知識を持っている。</p> <p>(2) 地域日本語教育の体制整備に向けて、現状把握・課題設定・実施を行うために必要となる基本的な知識を持っている。</p> <p>(3) 地方公共団体や所属機関の方針、地域のニーズを把握し、適切な日本語教育プログラムをデザインするために必要な知識を持っている。</p> <p>(4) 日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善を管理するための知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語教育プログラムの実施に必要となる、日本語教師（初任）や日本語学習支援者等に対する研修を企画するために必要な知識を持っている。</p> <p>(6) 地方公共団体をはじめとする地域の関係機関・団体・関係者と連携・協力体制を構築する上で必要な知識を持っている。</p>	<p>(1) 地域日本語教育の体制整備に向けて、現状把握・課題設定をし、課題解決のための取組を計画的に実施することができる。</p> <p>(2) 地方公共団体や所属機関の方針、地域のニーズを把握し、適切な日本語教育プログラムをデザインすることができる。</p> <p>(3) 日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善を管理することができる。</p> <p>(4) 外国人施策、教育行政や他の教育機関の動向等に関する情報収集し、現場に生かす力を持っている。</p> <p>(5) 地方公共団体をはじめとする地域の関係機関・団体・関係者と連携・協力体制を構築することができる。</p> <p>(6) 業務を円滑に行うための事務処理能力や組織マネジメント能力を持ち、状況に応じたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>(7) 多様な機関と連携・協力し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動をデザインすることができる。</p> <p>(8) 日本語教育プログラムに関わる日本語教師（初任）及び日本語学習支援者等に対する研修を企画できる。</p>	<p>(1) 日本語教育の専門家として、自らの職業の社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の指導や対応について客観的に振り返るとともに、自らの立場と役割を認識し、自らに必要となる知識・能力を獲得しようとするなど、常に学び続けようとする。</p> <p>(2) 日本語教師（初任・中堅）及び日本語学習支援者等に対して必要となる研修を把握し、その受講機会を積極的に提供し、中長期的な視点で人材育成をしようとする。</p> <p>(3) 日本語教育プログラムにおける管理的立場としての役割を認識し、前向きに取り組もうとする。</p> <p>(4) 地域内における日本語教育プログラムの取組を積極的に公開・共有するとともに、他地域の事例を収集・共有するなどし、地域全体の日本語教育の活性化に寄与しようとする。</p> <p>(5) 地域日本語教育の体制整備に向けて、日本語教育の立場から地域社会の課題解決に取り組もうとする。</p>

2. 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力

	知識	技能	態度
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】	<p>【1 「生活者としての外国人」に対する教育実践の前提となる知識】</p> <p>(1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>(2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。</p> <p>(3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。</p> <p>【2 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。</p> <p>(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するということを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>(2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。</p> <p>(4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。</p> <p>【2 成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>(5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者とより良い関係を構築できるよう促すことができる。</p> <p>(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個別性と学びに向き合おうとする。</p> <p>【2 学習者に対する態度】</p> <p>(2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>(3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3 文化多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。</p> <p>(5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワーメントとしての日本語教育を実践しようとする。</p>

3. 日本語学習支援者に望まれる資質・能力

	知識	技能	態度
日本語学習支援者	<p>(1) 日本語や日本文化, 社会, 多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。</p> <p>(2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。</p> <p>(3) 学習者の来日の経緯, 国や言語・文化背景, 日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。</p> <p>(4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション, コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。</p>	<p>(1) 分かりやすく伝えるために, 学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。</p> <p>(2) 学習者の発話を促すために, 耳を傾けると共に自身の発話を調整することができる。</p> <p>(3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師とともに, 日本語学習を支援することができる。</p> <p>(4) 学習者の状況を観察し, 日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら, 学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。</p>	<p>(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。</p> <p>(2) 学習者の言語や文化を尊重し, 対等な立場で接しようとする。</p> <p>(3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。</p> <p>(4) 学習者が自ら学ぶ力を育み, その学びに寄り添おうとする。</p> <p>(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。</p>

4. 地域日本語教育コーディネーター研修における教育内容

	教育内容
1	在留外国人施策・入国管理制度・教育行政と、地域における在留外国人の出身国や在留資格等の動向
2	日本語教育に関わる国及び地方公共団体の施策
3	在留外国人に関連する法制度、行政サービス等の把握・整理
4	地域日本語教育のプログラムデザイン ・課題設定からプログラムの策定・実施・点検・評価・改善 ・内省（振り返り）
5	日本語教育人材に対する研修の企画・立案 ・人材育成の考え方や手法
6	活動と広報 ・情報公開・発信 ・個人情報の保護 ・著作権 ・地域日本語教育に関する調査
7	事例研究 ・問題解決能力 ・現状把握から課題設定、課題解決に向けた方略の検討
8	組織マネジメント ・コーディネーターの役割 （コーディネーター論・リーダーシップ論） ・地域日本語教育に関わる人材や関係機関の把握とネットワーキング ・コミュニティーデザイン ・ファシリテーション

5. 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容

「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容

3領域	5区分	16下位区分	教育内容	
コミュニケーション	社会・文化に関わる領域	①世界と日本		
		②異文化接触	(1)国・地域の在留外国人施策	
		③日本語教育の歴史と現状	(2)「生活者としての外国人」に対する日本語教育 ・地域日本語教育 (地域国際化協会等の関係団体情報) (3)言語サービス（多言語化・「やさしい日本語」)	
		④言語と社会の関係	(4)「生活者としての外国人」の多様性 ・言語背景，文化的背景 ・言語管理，家庭内言語マネジメント ・ニーズの多様性	
	言語と社会	⑤言語使用と社会	(5)外国人住民の社会参加 ・地域言語と共通語 ・地域生活関連情報 ・エンパワーメント ・人間関係・ネットワークを築く力	
			(6)「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習 ・目的に応じた学習内容 ・「標準的なカリキュラム案」	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	(7)「生活者としての外国人」の異文化受容・適応	
	教育に関わる領域	言語と心理	⑦言語理解の過程	
			⑧言語習得・発達	(8)学習方法 ・学習者タイプ ・学習スタイル ・学習ストラテジー ・自律学習
			⑨異文化理解と心理	(9)日本語の学習・教育の情意的側面

言語に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	(11)各種指導法，教授法 ・地域日本語教室見学，活動参加 ・活動の振り返り (12)コースデザイン演習 ・ニーズ分析 ・学習内容 ・カリキュラムデザイン ・社会参加につながる活動の設計 ・学習・習得を促す活動 ・指導案作成 ・教材作成 (13)日本語能力の評価 ・「生活者としての外国人」の日本語能力 ・適切なレベルチェックの仕方 ・自律学習と評価 (14)指導力の評価 ・分析的な振り返り ・自己点検 ・課題の共有 ・改善方法の検討
		⑪異文化間教育とコミュニケーション教育	
言語に関わる領域	言語	⑫言語教育と情報	(10)「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソース ・教材の活用・作成と著作権
		⑬言語の構造一般	
		⑭日本語の構造	
		⑮言語研究	
		⑯コミュニケーション能力	

（備考）関連ページ p.25 表2 「「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」

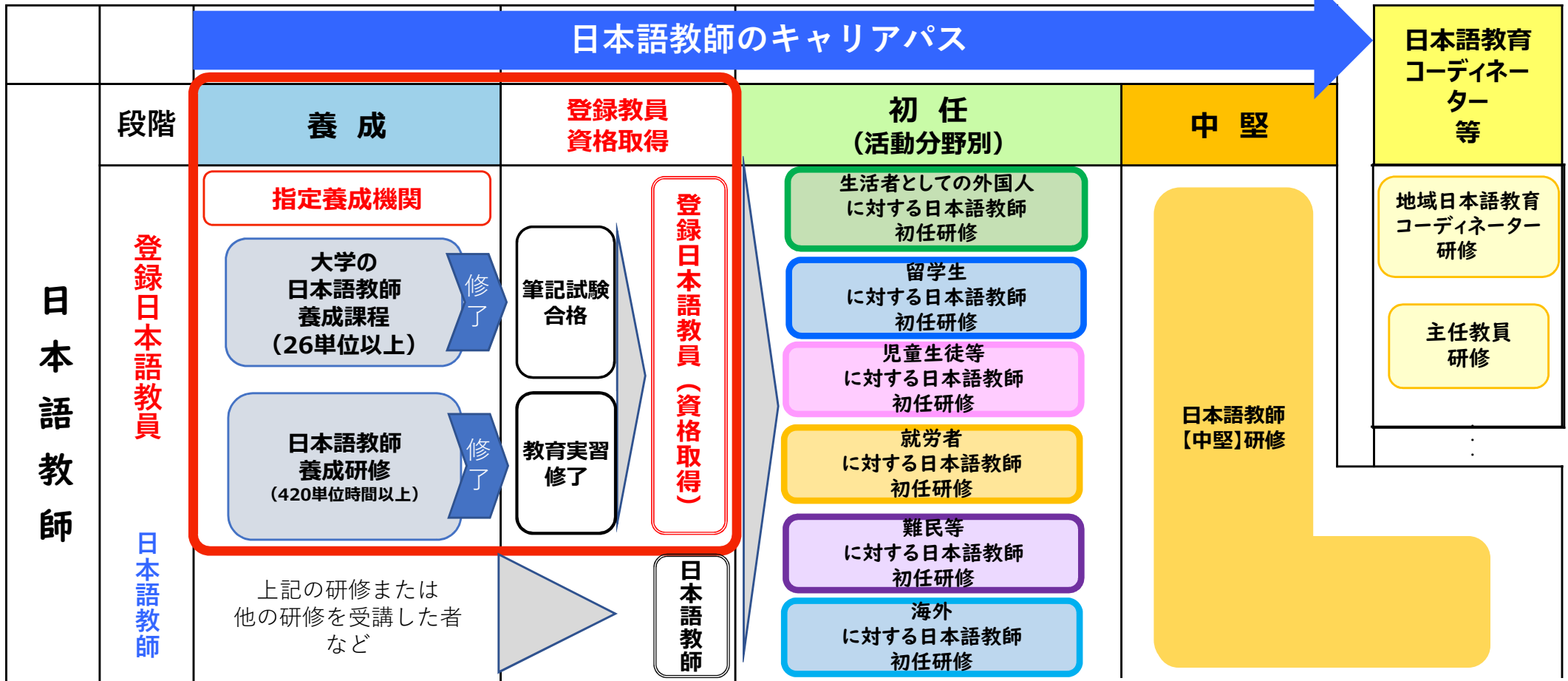
6. 日本語学習支援者研修における教育内容

3 領域	5 区分	16 下位区分	教育内容	
コミュニケーション	社会・文化に関わる領域	①世界と日本	(1) 学習者の背景に対する理解 ・在留資格 ・国内の在留外国人 ・主な出身国の文化背景 ・来日理由, 日本における生活状況など	
		②異文化接触	(2) 多文化共生 ・地域の多文化共生施策 ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標	
		③日本語教育の歴史と現状	・地域日本語教育の実施体制と支援者の役割	
	教育に関わる領域	言語と社会	④言語と社会の関係	
			⑤言語使用と社会	(3) コミュニケーションストラテジー ・地域の「ことば」 ・「やさしい日本語」
			⑥異文化コミュニケーションと社会	(4) 異文化理解 ・異文化コミュニケーション
	言語に	言語と心理	⑦言語理解の過程	
			⑧言語習得・発達	
			⑨異文化理解と心理	
	言語に	言語と教育	⑩言語教育法・実習	(5) 地域日本語教育の多様性 ・地域の日本語教室の見学 ・学習者及び支援者との交流 (6) 日本語学習支援 ・発話調整 ・傾聴 ・学習支援の流れ ・学習支援のリソース
⑪異文化間教育とコミュニケーション教育			(7) コミュニケーション教育	

関わる領域	言語	⑫言語教育と情報	
		⑬言語の構造一般	
		⑭日本語の構造	(8) 日本語の構造
		⑮言語研究	
		⑯コミュニケーション能力	

文書の最後 ■

新制度における日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ ※赤囲みが新制度



日本語教育人材	役割	説明
日本語教師	日本語学習者に直接日本語を指導する者	
地域日本語教育コーディネーター	日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善, 日本語教師等に対する指導・助言を行うほか, 多様な機関との連携・協力を担う者	
日本語学習支援者	日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に日本語学習者の日本語学習を支援し, 促進する者	

日本語学習支援者は、○コーディネータや日本語教師と共に、日本語教育の現場にボランティアとして参加し、日本語学習を支援し促進する役割が期待される。

○地方自治体等が主催する研修が全国で実施されている。

